

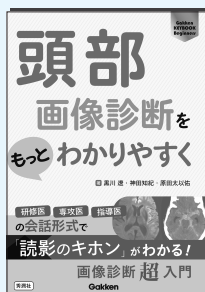
頭部画像診断を もっとわかりやすく

会話形式で「読影のキホン」がわかる！

著：黒川 遼（東京大学医学部放射線医学講座）

神田知紀（神戸大学医学部附属病院放射線診断・IVR科）

原田太以佑（北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野
画像診断学教室）



発行：Gakken

2024年10月刊行

A5判・248ページ

定価：5,060円（10%税込）

本書は、親しみやすく、読みやすい本であることに
とどまらず、随所随所に治療や病理にも触れ、新しい
情報が含まれ、初学者をはじめ神経放射線医にも読
んでほしい1冊になっている。

日頃、研修医と頭部画像について話していると、「脳
は両側対称的だから、対称的ではない異常をみつけ
ればOK!」という楽観的な考えの人と、「頭部とい
えば、血管障害、感染、腫瘍、脱髄、炎症、脱髄、変性、
中毒・代謝障害などたくさんあって、どうも……」と
いう消極的な考えの人に大体分かれる。両者は対局

的な考えの持ち主だが、本書はその両者を適切な方
向に導いてくれる。対称的であっても異常の場合も
あれば、対称的ではない所見を拾い上げるにも、正確
に読影するためのコツやポイントがある。前者にとっ
ては、目からウロコが落ち、頭部画像診断の奥深さを
理解できると思う。また、後者にとって本書は、分野
ごとに分けられた章ごとに、軽快な対話形式で解説
しているため、知らぬうちに苦手意識のあった領域
を読むことができ、頭部画像診断に親しみが湧いて
くる。

また、指導医にも読んでほしい。本書は、3人の著
者が日常臨床で多くの研修医や臨床医から質問を受
け、それらの質問を対話形式でわかりやすく解説し
た内容である。つまり、われわれ指導医が質問され
る内容が多く含まれている。「そういえば、同じよう
な問答をしたなあ」と思う部分もあれば、「あの時こ
のような解説をしてあげればよかったなあ」と思う
部分もたくさんある。つまり、指導医にとってもあ
りがたく、ステップアップするための内容となっ
ている。

最後に、神経放射線を専門にしている人にも一読
してほしい。私自身もこの本を読んでいると、アン
ダーラインを引いたり、メモを取ったりしたくなる
ような内容があり、知識の整理にもなる。この1冊は、
ベースとなる知識は違えど、三者三様の読み方、活用
の仕方がある。

自治医科大学とちぎ子ども医療センター

小児画像診断部

松木 充